

# 数学

名古屋大学 理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部

(自然情報学科、コンピュータ科学科) (前期)

1 / 1

## <全体分析>

試験時間

150 分

解答問題数

4 題

### 解答形式

全問論述式

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

### 出題の特徴や昨年との変更点

共通問題が出題された。[4]は文科系[3]と共通、[3](1)、(2)は文科系[2](1)、(3)と共通

### その他トピックス

確率漸化式が6年ぶりに出題された。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	三角関数 微分法・積分法	数学II 数学III	2直線のなす角を利用して条件を求める。 双曲線と2直線で囲まれた面積の最小値を求める。	標準
[2]	空間ベクトル	数学C	平面と直線、平面と線分が共有点をもつ $a$ の条件を求める。	標準
[3]	場合の数・整数	数学A	ある自然数 $N$ について、積が $N$ の階乗となる3つの整数の組の個数を、 $N$ 以下の素数の個数を用いて表す。	標準
[4]	確率 数列	数学A 数学B	平面上を移動する点が与えられた領域に存在する確率。漸化式を立てて、不等式を証明する。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

2019年度以前の名古屋大学の問題は難しいものが多く出題されていたが、近年では、小設問が次の問題を解く手がかりになっているなど、取り組みやすいものが多く出題されている。一方、計算がかなり煩雑になる問題も見られる。

以上のことを踏まえて、まずは標準的な問題の解法を確実に身につけておこう。その後、本大学の過去の入試問題や入試攻略問題集(河合出版)を用いて、難易度や傾向を把握しておくとうい。なお、微分法と積分法・確率・整数・数列・図形が頻出であるから、これらの分野は重点的に学習しておこう。